

科目名	地域福祉の理論と方法 I					単位	2.0
担当教員	牧村 順一						
授業形態	講義	開講期間	後期	配当年次	2	授業番号	1312

●授業のテーマ

地域福祉の基本的な考え方、構造・役割及び現代的課題

●到達目標

地域福祉についての的確な問題発見・分析能力を高め、地域特性の把握、地市分析の手法等を理解する。

●学習内容(授業概要)

社会福祉の中で、比較的新しい分野である地域福祉の基本的な考え方、意義・役割及び現代的課題について考える。老人・障害・児童等の分野別の社会福祉ではなく、住民のくらしの場（地域社会）を基盤に、分野を越えて実践する地域福祉が必要とされるに至った背景（生活問題の変化）を理解しつつ、実践上の理論的枠組みについて考察する。

さらに、具体的な地域福祉実践活動の目的・方法及び住民の組織活動の現状を理解し、コミュニティ・ソーシャルワークとして展開する方法や原則を学ぶ。

●学習内容(授業計画)

《後期》

1. はじめに（オリエンテーション）
2. 地域福祉の意味 コミュニティモデル
3. 地域福祉の基本的な視点（1）地域構造と地域特性
4. 地域福祉の基本的な視点（2）地域生活問題の把握
5. 地域福祉の発展過程（1）ヨーロッパにおける地域福祉の発展
6. 地域福祉の発展過程（2）日本における地域福祉の発展
7. 地域福祉の主体と対象（1）地域組織化と地域福祉
8. 地域福祉の主体と対象（2）地域福祉理論の展開
9. 地域福祉における行政・社協の役割（1）公私分担
10. 地域福祉における行政・社協の役割（2）社協の発展と期待される役割
11. 地域福祉における民間組織・住民の役割（1）住民組織化
12. 地域福祉における民間組織・住民の役割（2）社会資源の構築
13. 地域福祉の人材と専門職（1）コミュニティーワーク
14. 地域福祉の人材と専門職（2）他職種との連携
15. まとめ

●準備学習・事後学習の内容

毎回の授業のテーマごとに自分で事前に調べておく。授業後は、授業内容を確認するとともにテーマに沿って関連する領域についてもさらに調べておく。

●成績評価方法・基準

学期末レポート（75%）

課題レポート（25%）

●テキスト（必携）

≪No.1.≫書籍名：『地域福祉の理論と方法』、著者名：編集委員会、出版社：みらい

●参考文献／その他

授業時に指示する

●履修上の注意

テキストを事前に読み込んで臨むこと